

みんゆう 随想

北海道と言えば「木彫りの熊」といのは昔の話で、今は

もっぱら2時間の行列に耐えた者だけが堪能できるという「生キヤラメル」が流行りらしい。そんな新千歳空港の空を見上げて溜め息をつく4人組。こうして今年も男たちの至高の5日間が幕を開けた。

今回の最大の目的は何と言

つても「オオイチモンジ♀

である。あの蝶にあるまじき堂々たる風格と気品。一切の観光的行動を封印して、丸

瀬布町武利川に入る。腰の熊

渡辺 浩

石川町・ワタコギター
ミュージックスクール代表



鈴をジャフジャフやりながら「らめっこ」の強い方が勝ちら

奥へ奥へと入って行く。しかし。さらにオオイチモンジ

しどんな奥にも蝶屋はいた。の発生が例年になく遅いこと

7月、北海道の林道は全国や、梅雨のないはずの北海道

から集まる蝶屋とバイク屋たが連日雨など、近年の異常気

ちの天国になる。今年は「オ象を訴えていた。確かに天候

オイチモンジ♂」を数頭採集待ちの登山客も多く、この寒

したが、圧倒的に数が少ない。さでは上の方(大雪山系)はか

「中年蝶採り隊が行く」〜蝦夷編

滞在先の層雲峡ペンションなり荒れていることだろう。

のオーナーは、異化型オオイ 翌日、ニセイチャロマップ

チモンジの存在を世に初めて 川に入ると、林道入り口で2

紹介した凄腕の蝶屋である。 人組の蝶屋に出会った。普通

オーナーとの虫談議は、蛹 なら「大人の顔」を装いなが

採集法からヒグマ対策まで らも「俺たちが先にポイント

と、外の雨音も忘れて深夜に に行くもんね」と対抗心刺き

まで及んだ。オーナーの経験 出して足早になる場面だが、

から、ヒグマに遭遇したら」 この寒さで蝶がないのだから

ら火花も散らない。 への全員が眼鏡を眉毛の上

札幌の小学校校長の名刺を に移動させていた。

差し出したその男性は、「福 最終日、ついに天候が回復

島の石川って母畑温泉でしょ した。ペンションオーナー特

? 何度か泊まりましたよ」 製の物凄い異臭を放つ「オオ

と急に気さくな表情に変化し イチモンジ♀」専用トラップ

た。そして採集ポイントに案 を積み込み、車は窓を全開に

内してくれろと言う。ヒグマ して、丸瀬布町に向かった。

の出没率が抜群と言われるユ 林道のあちこちにトラップを

ニ石狩岳林道で、その校長は 仕掛けたが、獲物は姿を見せ

「こんな仕事していると、ヒ ない。エゾジカやエゾリスが

グマより国定公園で採集して 少し離れたところから「大の

新聞沙汰になる方が怖いです 大人が何やってんだあ」と

よ」と指定地域直前で引き返 軽蔑の眼差しで見ている。

すことを提案していた。 こうして前回の八重山編に

結局、この寒さで採集は無 続き、天候に見放されたまま

理と判断した男たちは、岩場 5日間は幕を閉じた。帰宅す

にへばり付き、小さな小さな ると、テレビや新聞では、大

ジョウザンシジミの幼虫採集 雪山系の遭難事故を大々的に

に切り替えた。そして四つん 報道していた。